



～HuRP出版から写真集が刊行されます～

竹内敏恭さんの写真との出会い

モノクロ写真集『石巻 2002～2011』刊行によせて



「日和山から門脇、南浜町 2011 年 2 月 23 日」

このたび、3 年目の「3.11」を前に、竹内敏恭写真集『石巻 2002～2011』が刊行された。「3.11」直前までの石巻の風景を収めたモノクロ写真集。巻末には一部、同じ地点・同じアングルで撮影された「震災後」の風景も収録されている。

HuRP と、本書のもととなった写真展との出会いは、2011 年 4 月にさかのぼる。HuRP 会員の武田貞子氏が、池袋に写真専門の「床屋ギャラリー」をオープンした際、最初の展示が、竹内敏恭さんの「石巻 2002-2010」。東京でも断続的に余震が起き、福島原発事故への不安、節電、電車の間引き運行の中での展示だった。

竹内さんが石巻を撮り始めたのは 2002 年。「石巻在住の義母が亡くなり、久しぶりに帰ると、町は

かつての賑わいからは想像できないほど寂れていた。目抜き通りの商店街は閉まり、河口には漁船が沈み、造船所は閉鎖。この時から、漁業・漁港の色合いが薄れていくこの町と旧漁港を写真に残したかった。」という。

10 年間撮りためて 2011 年 4 月、東京新宿と池袋のギャラリーで写真展の開催が決まり、「2 月末に事前確認のため、写真を撮った場所を見て廻った。漁港の町の面影は薄れたが、公園を整備したり、商店街の模様替えをしたりと、明るさを少し取り戻したように見えた。」

3 月 11 日、地震が起きた時、竹内さんは東京の自宅暗室で展示用の写真を引き伸ばしていた。「テレビでは石巻地方のことはすぐには放映されな

かった。自分の撮ってきたところは津波を受けやすい地形で、流されたと思えばう然となった。暗室の現像液が床に溢れ出ました。」それでも何とか、予定通り写真展の開催にこぎつける。

「石巻から避難されてきた方を含め、石巻に縁故のある人たちもたくさん見にきてくれた。石巻にボランティア活動に行き、帰りにその足で寄ってくれた人もいて、「浚(すく)われる前の石巻」を見てもらいました。」

震災後、初めて石巻に入ることができたのは2011年7月。撮影した場所のほとんどが押しつぶされ、流され、見る影もなかった。以降、半年に1回くらい通い、巡礼のように見て廻る。「瓦礫は残っていても、あたり一面、遠くまで見渡せる光景。人の住んでいた跡地には、目安もなく、道一本が特定できず、行ったり来たり。」写真集巻末に一部収録された「震災後」の写真は、この頃に撮影されたものだ。

2011年、私たちHuRPは「3.11」を目の当たりにし、自らの姿勢を根本的に問い直すことになった。私たちは話し合いを重ね、「人権・平和は人の命があることが前提」という「原点」を確認し、これを風化させないため、そして一人ひとりの「命を生きる」権利のため、できるかぎりの活動を行おうと決めたのだった。竹内さんの撮りためた「震災によりなくなってしまった風景」を見た時、石巻とはどんなところだったのか、そこでどのような生活が営まれていたのか、その失われたもの、人に想像力を働かせることが「震災後」を考える原点でなければならないと確信し、本書をぜひ刊行したいと考えた次第である。



「湊町 2003年1月6日」



中瀬 2008年4月18日

石巻の人たちに心を寄せる多くの人たちに、ぜひ本書を手にとっていただきたい。

「天災とはいえ、つい昨日までの日常、今日も当然続いているはずの〈今〉が、一瞬のうちに根こそぎ破壊されてしまったのです。この写真集は、震災前10年間の〈今〉の光景です。そして大津波がなければ当然〈今でも〉続いている光景です。

この写真集が、石巻の歴史と記憶の一端を少しでも埋めることができればと思っています。」

——「撮影後記」より
(A.T.)

* 刊行にあわせ、東京池袋「床屋ギャラリー」で個展も開催される。

▼竹内敏恭写真展

『MEMORIES - 石巻・震災前最後の夏冬』

会期: 2月28日(金)～3月9日(日)

※金・土・日のみオープン

会場: 床屋ギャラリー(JR池袋駅 徒歩5分)

<http://tokoyagallery.blogspot.jp/>



本写真集をお求めの方は、HuRPまでメールにてお申し込みください。送料無料にて発送いたします。
(2014年3月11日刊行、A5版、80頁、1000円)

勉強会①「選挙」

2014 年の活動内容の一つとして企画された「月 1 勉強会」。昨年の企画で“自分語訳”した憲法の前文でも「日本国民は、正当に選挙された国会における代表者を通じて行動し、…」と冒頭にあり、選挙・参政権は日々の生活に大きく関わる制度であり権利です。それぞれの視点で『選挙』の〇〇」を調べ、理解を深められたらと思い、第 1 回の勉強会テーマは「選挙」となりました。

定例会議で何人かの発表があり、テーマや視点はさまざまでした。

- ◆ 立候補の懐事情～議員になるための資格・手続に財産差別があるのでは？
- ◆ 外国人参政権について～外国人に選挙に参加してもらい、日本の政治や政策に客観的な意見を取り込むのはどうか。
- ◆ 「選挙」で「国民の意思」は本当に反映されるのか～「選挙」の「正当性」の根拠と問題点とは。
- ◆ 選挙管理委員会のしごととは？～「正しい」選挙を実施するための選挙管理とは、どんな人たちによる、どんなしごとなのか。

今回の「選挙」で調べたことを、より深く追究しようというメンバーは次回の勉強会に続編を発表予定です。また、今後も勉強会で関心事を取り上げ、活動の原動力にしたいと考えています。

銘酒『憲法と人権』

こんなお酒があるのをご存知でしょうか。その名も『憲法と人権』。HuRP のメンバーがを見つけました。

佐々木酒造と京都弁護士会、京都弁護士協同組合のコラボレーションにより、2005 年に誕生したそう。

京都弁護士会では「憲法と人権を考える集い」を毎年開催しており、第 35 回目の集いの際、記念品をつくりたいという意見が持ち上がり、俳優・佐々木蔵之介氏の実家で京都の町中に唯一残された造り酒屋の佐々木酒造でつくろうと決まったということです。

ラベルにもこだわり、世界的に注目される女流書道家・臼井千里氏に依頼。

販売を開始すると、人権関係の集会や会合はじめ、法科大学院では「この銘酒を飲めば司法試験合格間違いなし」と好評を得ているとのこと。

京都弁護士会は「この不透明軟弱な時代に硬派の銘酒『憲法と人権』を傍らにおき、いや思索の友として大いに憲法と人権を語ってほしい」とアピールしています。『憲法と人権』はネット販売しています。
(<http://kenjin.cart.fc2.com>)

* 720ml・1000 円～／1.8l・2000 円～



□■HuRP の本棚□■□

『日本降伏—迷走する戦争指導の果てに』 額 厚 (日本評論社／2013 年 12 月 8 日／定価 2310 円)

1945 年 8 月 15 日、日本はアジア太平洋戦争に敗北した。この戦争は誰が始め、終わらせたのか――。

戦後から今日に至るまで、この戦争について、あらゆる角度から研究がなされている。本書では、一連の戦争が一体誰によって指導されたのかという「戦争指導」の側面からとらえ、その実態を追いつつ、戦争指導を担った指導層の動きや考えを追求している。著者は、日本の戦争指導の主体と、その特徴を明らかにすることは、同時に戦前日本国家自体の構造を追うことに直結し、さらに戦前日本国家自体が抱えた矛盾や課題を指摘することにもなり、これが本書を貫く基調となる。

毎日新聞 1 月 12 日の東京版朝刊では、書評欄で「国家は、非常事態に直面したときにその本質を明らかにする。本書は、日本の敗色が濃厚になるなか「太平洋戦争」があそこまで長引いた理由に迫る。私たちの日本国の有り様を知るいいテキストだ。」と紹介しています。



◎◎◎◎◎ イベントのお知らせ ◎◎◎◎◎

『笹の墓標』 上映会のご案内

2012 年、HuRP はブックレット『金大中図書館に行ってみよう』の刊行を通し、分断国家という現実を背負いながら軍権力の究極の弾圧に対抗し、民主主義社会を実現した韓国民衆の現代史に多くを学び、日韓関係のあり方についても考えることになりました。

今回紹介する映画『笹の墓標』は、第二次世界大戦下に雨竜ダムの建設や名雨線鉄道工事のために強制連行され、強制労働によって亡くなった朝鮮人労働者の遺骨発掘を取材したドキュメンタリー。1997 年から韓国人、日本人、在日韓国人の若者たちがダムのある北海道幌加内町などで、強制労働の犠牲となった人たちの遺骨を収集し、韓国の遺族に届ける「東アジア共同ワークショップ」が行われてきました。その様子を描いた全 5 章、9 時間におよぶ記録映像です。

● 3 月 7 日(金)～9 日(日) 各日とも 10 時より／横浜 スペース・オルタ

〔8 日(土)の上映後 20:05～20:50 には制作者を迎えて座談会を開催〕

共通 5 プログラム券:2000 円／予約・問い合わせ:スペース・オルタ TEL&FAX:045-472-6349

〒222-0033 横浜市港北区新横浜 2-8-4 オルタナティブ生活館B1 URL:<http://spacealta.net>

「村山談話を継承し発展させる会」 第 2 回 公開研究会のご案内

「日本軍国主義による侵略戦争と植民地支配がアジア諸国の人々に多大の損害と苦痛を与えた歴史を深く反省し、『平和国家』をつくり、世界に貢献していくことが戦後の日本に課せられた歴史的使命です…」として、2013 年 11 月 11 日に結成された「村山談話を継承し発展させる会」。1995 年 8 月 15 日に当時の村山富市首相が表明した「村山談話」は侵略戦争の反省と非戦の誓いを改めて世界に向けて発信したものであり、その精神を継承し、発展させることを目的としている。特定秘密保護法の成立や集団的自衛権の行使など、暴走する安倍政権をけん制する活動を開始するとともに、第 2 回公開研究会を行う。

● 3 月 16 日(日) 14 時～17 時／渋谷区立勤労福祉会館 2 階第一洋室

主催:村山談話を継承し発展させる会(共同代表:浅井基文・浅野健一・天木直人・内海愛子ほか)

講演:田中宏(一橋大学名誉教授) 演目:「日本の戦後責任・戦後補償を考える」

会費:非会員 1000 円／会員 500 円

連絡先:murayamadanwa1995@ybb.ne.jp

【編集後記】▼本号巻頭「モノクロ写真集『石巻 2002～2011』刊行によせて」の原稿を読み、竹内さんの写真を眺めているうちに東日本大震災直後を鮮明に思い出し、胸のつまる思いでした。あの日から 3 年が経とうとしています。▼大雪や寒さの続く 2 月でした。東京都知事選挙が行われましたが、都民の方、そうでない方も、どんな思いで結果を受け止めたのでしょうか…。▼3 月号では、あらためて東日本大震災をめぐるテーマについて考えたいと思います。(望)

特定非営利活動法人 人権・平和国際情報センター Human Rights and Peace Information Center Japan

〒171-0014 東京都豊島区池袋 2-17-8 丸十ビル 402 号 電話&FAX 03-6914-0085 <http://www.hurp.info/>